記　者　発　表　資　料

令　和　２　年　１　月　８　日
（公財）横浜市ふるさと歴史財団

横浜市新市庁舎
完　成　記　念
３館連携展示

―横浜市新市庁舎完成記念―

新市庁舎建設地＝洲干島遺跡と歴代横浜市役所から横浜の歴史をひも解く３つの展覧会を開催！

近代横浜を掘る

―洲干島からひろがる都市のすがた―



１月18日（土）～４月12日（日）

横浜都市発展記念館

町会所から市役所へ

―古地図と古写真に見る横浜の歩み―



２月１日（土）～４月19日（日）

横浜開港資料館

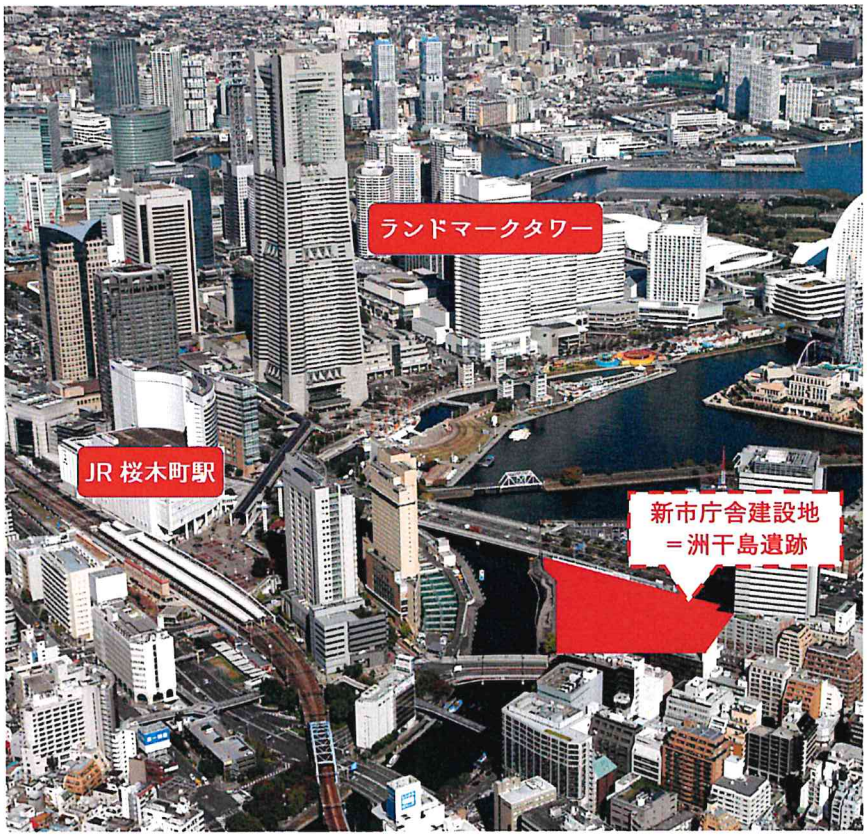
明治・大正ハマの街

―新市庁舎建設地・洲干島遺跡―



４月１日（水）～７月５日（日）

横浜市歴史博物館



洲干島遺跡（しゅうかんじまいせき）とは…

平成27（2015）年８月から翌年３月にかけて、横浜市新市庁舎の建設に先立ち、（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センターによって発掘調査がおこなわれた遺跡です。遺跡は洲干島と呼ばれたかつての砂洲の先端に位置しており、江戸時代から続く洲干弁天社の社地にあたることから、洲干島遺跡と名付けられました。

近年横浜市域では、山下居留地遺跡や神奈川台場など、開港以降の「近代の遺跡」を発掘調査する機会が少しずつ増えてきています。洲干島遺跡の周辺は、開港後の埋め立てによって急速に市街地化が進んだ地域であり、発掘調査の成果は、横浜の近代化を考古学の視点から探ることができる重要な資料です。

展覧会で紹介する洲干島遺跡の遺構は、新しい市庁舎の足元に眠る歴史の一部として、現地の外構部分などで展示される予定です。

裏面に各展覧会のポイント紹介があります

各展覧会のポイント

◆横浜都市発展記念館　横浜市新市庁舎建設地「洲干島遺跡」の発掘調査の成果をもとに、横浜開港から震災復興までの都市形成の変遷を出土した遺構や遺物で紹介。

◆横浜開港資料館　開港直後に町の行政機関として設置された町会所（まちかいしょ）の歴史や明治22(1889)年に発足した横浜市の現在に至る歩みを古地図や古写真等で紹介。

◆横浜市歴史博物館　会場を洲干島遺跡に見立ててめぐり歩きながら、近代に横浜の街に取り入れられた水道といった新たなインフラ技術等を中心に出土遺物で紹介。

イチオシの関連イベント

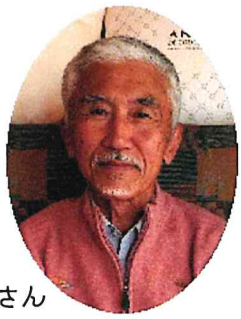
実際に洲干島遺跡の発掘調査に携わった方々の話が聞ける貴重な機会です！

■ 連続講座「洲干島遺跡を読み解く」
第1回　2月29日（土）14：00～15：30
「洲干島遺跡の全貌：その遺構と遺物」
講師：鹿島 保宏〔(公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター〕
会場：横浜開港資料館 講堂
参加費：500円
定員：80名（応募多数の場合は抽選）
※全4回開催予定

■ 歴史散歩「ヨコハマ近代遺跡めぐり
～象の鼻パーク、山下居留地遺跡ほか」
第1回　3月20日（金・祝）13：30～16：00
集合：横浜都市発展記念館1階ギャラリー
参加費：800円
定員：20名（応募多数の場合は抽選）
※全2回開催予定

■ 上記以外にも展示解説、連続講座、歴史散歩など開催予定！申し込み方法等、詳しくはWEBで！

■ 講演会　「横浜と近代遺跡」
日時：6月7日（日）14：00～15：30
講師：坂上 克弘〔元（公財）横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター所長〕
会場：横浜市歴史博物館 講堂
参加費：1,000円
定員：150名
（応募者多数の場合は抽選）


講師
坂上克弘さん

単館券より
300円も
お得！



お得な前売り券販売中！

3館すべての展覧会が800円で観覧できるお得な前売り券を各会場にて販売します。
（＊現在、工事休館中の横浜市歴史博物館は4月1日より販売）

主催：(公財）横浜市ふるさと歴史財団　共催：横浜市教育委員会
協賛：横浜市総務局
後援：朝日新聞横浜総局・神奈川新聞社・産経新聞社横浜総局・東京新聞横浜支局・日本経済新聞社横浜支局・毎日新聞社横浜支局・読売新聞横浜支局・NHK横浜放送局・tvk・FMヨコハマ

連携展示のロゴマークは、新市庁舎と3館連携の「3」、横浜の「ヨ」をイメージしたものです。

横浜市新市庁舎
完成記念
3館連携展示

お問合せ先		
横浜都市発展記念館	展示担当：青木 祐介	045-663-2424
横浜開港資料館	展示担当：西川 武臣	045-201-2100
横浜市歴史博物館	展示担当：橋口 豊	045-912-7777

横浜都市発展記念館・横浜開港資料館・横浜市歴史博物館は、(公財)横浜市ふるさと歴史財団が指定管理者として運営する施設です。